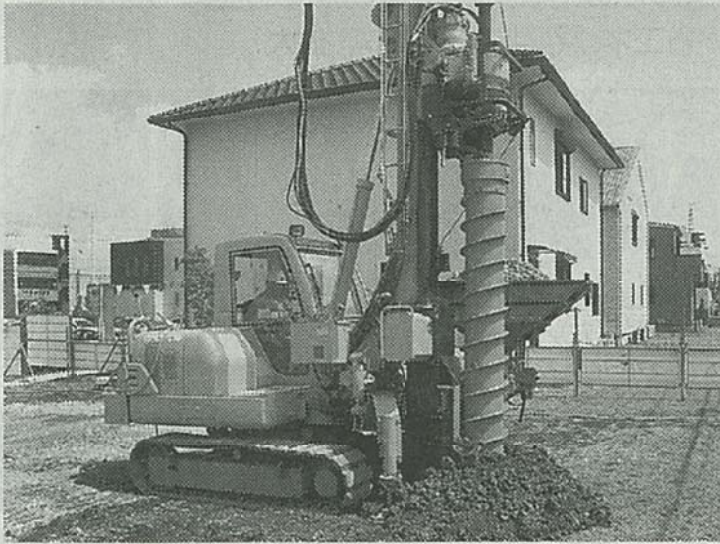


高速道路の盛り土改良へ

尾鍋組 地盤強化に「エコジオ工法」活用



エコジオ工法で地面を掘る

土木工事業の尾鍋組(本社松阪市飯高町宮前、尾鍋哲也社長、電話0598・46・0234)は、地中を垂直に掘った穴に天然の碎石を埋めて地盤を固める「エコジオ工法」について、高速道路の盛り土での活用法としての確立を目指している。同工法によって埋めた碎石層の底にたまった地下水を横から入れたパイプで盛り土の外へ出す方法として用いる。三重大学、高速道路総合技術研究所(東京)と共同で効果を検証し、1年後をめどに事業化したい考え。

(松阪・倉科信吾)

1年後の事業化めざす

これまで、エコジオ工法以上が住宅分野の地盤補強を活用した施工件数の9割だが、尾鍋組は非住宅分野

の外へ抜く方法を確立しようとしている。

にも採用を広げようとしている。今回の検証はその一環。碎石の透水性を生かして、水がたまりやすい場所に横から入れたパイプを通したまま水を盛り土

場所によっては地下水がたまりやすい盛り土もあり、同工法の採用によって、少ないコストで盛り土の地盤を強化できるようにする。

同社は2012年6月から、宮城県的高速道路で検証を繰り返している。これまでの結果から「効果の確証が得られる見通しが立ってきた」(尾鍋社長)としている。今後、さらに安全性などを確認し、事業化に向け準備を進めていく。